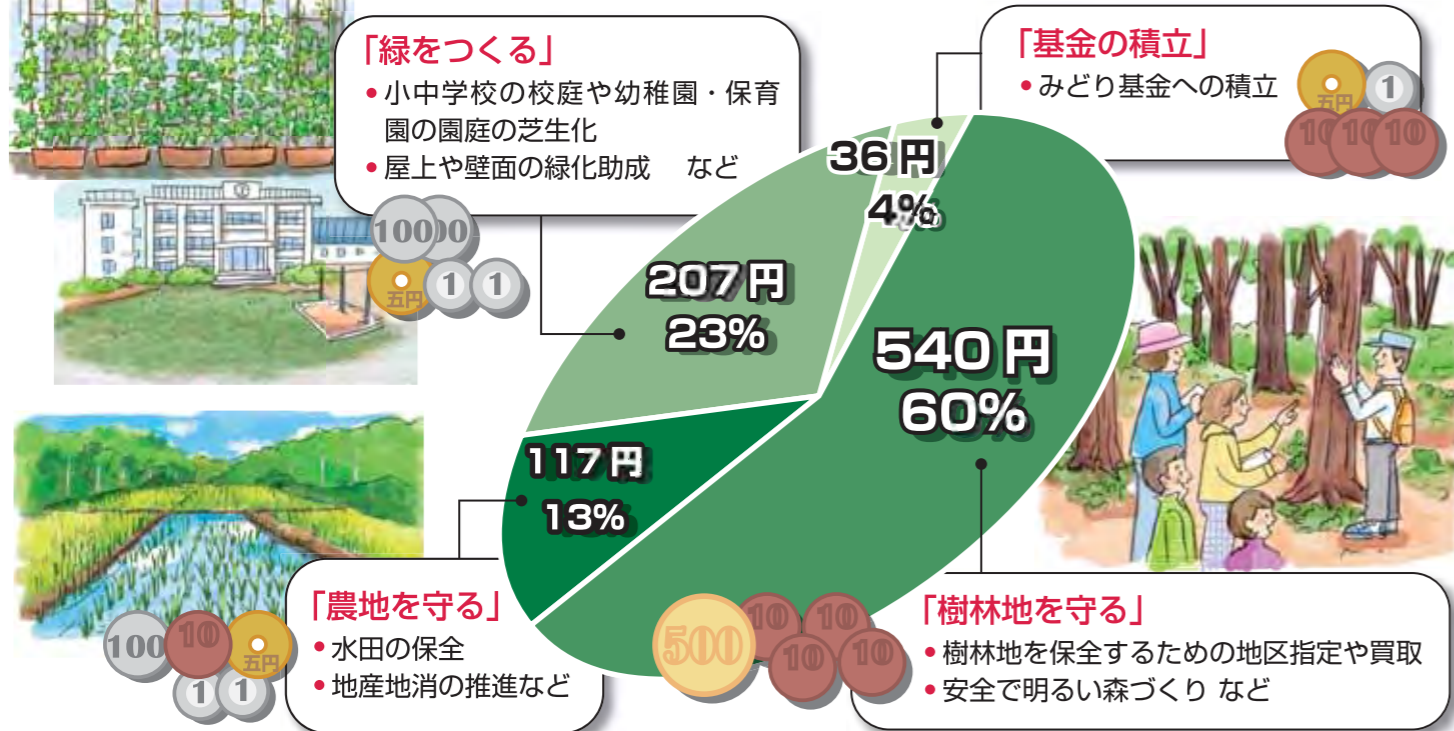


# 横浜みどり税で みどりをつくり、守っています！

平成23年度の横浜みどり税の使い方（予算）を900円\*で換算すると…  
（※900円とは、横浜みどり税の1年間の個人市民税額です。）



**「緑をつくる」**  
 ・小中学校の校庭や幼稚園・保育園の園庭の芝生化  
 ・屋上や壁面の緑化助成 など

**「基金の積立」**  
 ・みどり基金への積立

**「農地を守る」**  
 ・水田の保全  
 ・地産地消の推進など

**「樹林地を守る」**  
 ・樹林地を保全するための地区指定や買取  
 ・安全で明るい森づくり など

## 横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）

緑豊かな環境を将来に残し、市民と一緒に緑を守り育てていく計画で、「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」取組のことです。

## 横浜みどり税

「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」の財源の一部として、市民税の均等割に上乗せされています。（個人900円/年、法人9%/年）

## 横浜みどりアップ計画 市民推進会議

横浜みどり税も財源の一部となっている「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」について市民の視点で評価、提案等に取り組んでいます。

## ご連絡・お問い合わせ先

横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局  
 （横浜市環境創造局政策課）  
 〒231-0017 横浜市中区港町1-1  
 TEL：045-671-4214 / FAX：045-641-3490  
 E-mail：ks-mimiplan@city.yokohama.jp

< 横浜みどりアップ計画市民推進会議ホームページ >  
 アクセス方法：横浜市環境創造局ホームページ>緑・公園  
 >横浜みどりアップ計画>横浜みどりアップ計画市民推進会議  
 URL：http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/etc/jyorei/keikaku/midori-up/midori-up-plan/shiminsuishinkaigi/

## 濱RYOKU第8号の訂正のお知らせ

濱RYOKU第8号において、下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

濱RYOKU第8号裏表紙  
 「水田保全契約奨励事業で横浜市の田園風景が守られます。」  
**【市内の水稲作付面積】**  
 誤：165ha（H18農林業センサス）  
 →正：154ha（H22神奈川県農林水産統計）  
 誤：35% 64.8ha → 正：35% 53.8ha  
**【水田保全契約奨励事業とは】**  
 誤：他面的 →正：多面的



# 濱RYOKU

\*濱RYOKUとは「市民力」と「緑」のリョクを兼ねています。

## みどりのオープンフォーラム

～まちなかの緑を増やそう!!～

横浜のまちなかの緑について一緒に考え、語り合える方を募集します！

10月1日（土）10:15～12:30（受付10:00）雨天実施

場所：tvkハウジングプラザ横浜  
 （横浜市西区西平沼町6-1）

内容：①横浜のまちなかの緑化事例紹介

②グループディスカッション

テーマ：「まちなかの緑を増やそう」

たとえば・・・

まちなかにこんな緑の空間があるといいな。

まちなかの緑を増やすにはどうしたらいいのだろう。

費用：無料

募集人数：40名\*

申込期間：

9月9日（金）～20日（火）必着

対象者：横浜市に在住または在勤の方

\*応募者が募集人数を超えた場合は、抽選となります。申込期間を過ぎて定員に余裕がある場合は、追加応募を受け付けます（先着順）のでお問い合わせください。

\*申込期間後に、参加の可否及び連絡事項について通知いたします。

主催：横浜みどりアップ計画市民推進会議

## 申込方法

下記の必要事項を記入の上、郵便、Eメール、ホームページ、FAXでお申込みください。

【必要事項】行事名（みどりのオープンフォーラム）、住所、名前（ふりがな）、電話番号、年齢、職業

\*いただいた個人情報については、フォーラムに関する事務以外に使用いたしません。

【申込先】

横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局（横浜市環境創造局政策課）

住所：〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL：045-671-4214 FAX：045-641-3490

E-mail：ks-mimiplan@city.yokohama.jp

URL：http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/etc/jyorei/keikaku/midori-up/midori-up-plan/shiminsuishinkaigi/

横浜みどりアップ計画市民推進会議

検索



イングリッシュガーデン散策付き

横浜バラクライングリッシュガーデン

オープンフォーラム参加者は、フォーラム参加後に、tvkハウジングプラザ横浜内にある「横浜バラクライングリッシュガーデン」（ガイド付）を無料で散策していただけます！（通常入園料800円）

## 会場案内

tvk ハウジングプラザ横浜

http://www.tvk-yokohama.com/ecompark/



電車 相鉄線平沼橋駅より徒歩5分。

横浜駅より徒歩20分。

車 駐車場500台。

tvkハウジングプラザ横浜無料送迎バス

横浜駅西口天理ビルおそら銀行前発着。  
 （始発9:45）（無料送迎バスの定員には限りがありますので、あらかじめご了承ください。）

# 横浜市の地産地消の取組を紹介します

## 横浜みどりアップ計画の中での取組

### 収穫体験農園の開設支援事業

(この事業には「横浜みどり税」が使われています。)

市民が身近なところで地産地消を実感できるように、果樹のもぎ取りや野菜の摘み取りなど、収穫体験を楽しめる果樹園や農園の整備を支援しています。施設の設置に助成を行うとともに、農園案内等への支援を行っています。

H22年度の実績▼

収穫体験農園整備に対する助成：2.3ha (22か所)



「YoursGarden」門倉農園 (戸塚区)

### 共同直売所の設置支援事業

市民が身近なところで地場農産物を購入できるように、駐車場等を備えた多機能型の共同直売所を設置する際に、その整備に対し支援します。保冷库や平型冷蔵ショーケースやPOSレジなどの備品等の導入を支援することで、野菜や肉の鮮度を保持できるほか、お客様のニーズに見合う品揃えができるようになります。

H22年度の実績▼

共同直売所の備品等に対する助成：11か所



「ハマッ子」J A中里直売所 (青葉区)

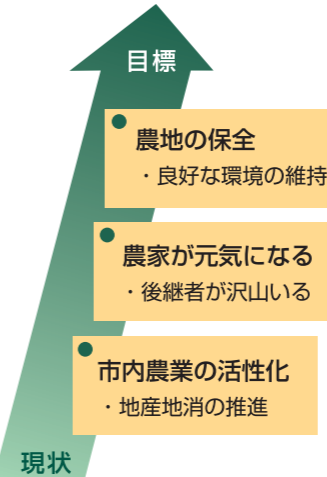
### 横浜みどりアップ計画と地産地消の関係

「横浜みどりアップ計画 (新規・拡充施策)」は、市内のみどりである「樹林地を守る」「農地を守る」「緑をつくる」取組を行うものです。地産地消の取組は、畑や田んぼや果樹園といった農業景観の保全につながります。市内の農地のほとんどが、先祖代々横浜で農業を営まれている農家のものですが、食のグローバル化などにより農業をとりまく社会情勢は厳しく、全国的に見ても農家の高齢化や後継者不足など大きな問題を抱えています。

市内の農業がより活性化し、農家の方々が長期的に農業を続けていくことが、みどりの保全にもつながります。

#### 地産地消のメリット

- 生産者の顔が見え、安心
- 新鮮で美味しく旬を味わえる
- 消費者の声を直接受けて、生産者の生産意欲が高まる
- 生産者と消費者のコミュニケーションが生まれ、地域を元気にする
- 運搬距離が短いので、CO<sub>2</sub>の排出量が少なく環境にやさしい



レポート：伊藤 (横浜みどりアップ計画市民推進会議)

## 横浜みどり税の充当事業以外の魅力的な地産地消の取組

### はまふうど※コンシェルジュ講座

横浜市では、エコで体にもやさしい「地産地消」を推進するため、横浜産農産物のマークである「はま菜ちゃん」をはじめ、様々な取組を実施しています。今回ご紹介するのは、その中の一つである「はまふうどコンシェルジュ講座」。平成18年から実施し、今年で6年目となります。この講座は、講義や実習を通じて、横浜の「農」と「食卓」をつなぐことを目的としています。講座の参加者は、野菜ソムリエ、飲食店オーナー、農業ボランティア、小学校の栄養士など実に様々。これまでに153名の方が講座を修了し、今年は新たに31名のコンシェルジュが生まれました。コンシェルジュの方々には、市内の「食」と「農」をつなぎ、地産地消をさらに推進する活動が期待されています。

この事業には、横浜みどり税は活用されていませんが、地産地消を進めていく上で重要な事業であると思います。

※「はまふうど」とは…

横浜の「浜」に「フード(食べ物)」と「風土」をあわせた言葉です。横浜の「農」・「食卓」と「農地や農業、農産物」をつなぐということを意味しています。

「はまふうどコンシェルジュ」とは、「はまふうど」(=地産地消)を実践し、普及に努める方々を総称します。



直売所での販売実習「白井農園」(保土ヶ谷区)



#### 受講者の声

この講座に参加して、はじめて横浜の農の実態を知ることができました。有意義な講座でした。

様々なプログラムをとおして、自分がこれから何をやりたいかを明確にすることができました。この出会いをつなげていきたいです。

今回築いていただいたネットワークを活かして、横浜を元気にできればうれしいと思います。

レポート：伊藤 (横浜みどりアップ計画市民推進会議)

## 魅力満載！ 市内農産物・直売所



開店前には新鮮野菜を求める行列が！！「FRESCO」(保土ヶ谷区)

横浜市内には全部で4,202戸の農家さんがいて、その特徴としては野菜生産が約3/4と大半を占めていることです。生産量でもコマツナが全国2位、カリフラワー同8位、キャベツ同10位と全国的に見ても野菜の生産が盛んです。

野菜の自給率は、約18%ですが、369万人という横浜の人口を考えるとこの数字は多いと言えるのではないのでしょうか。

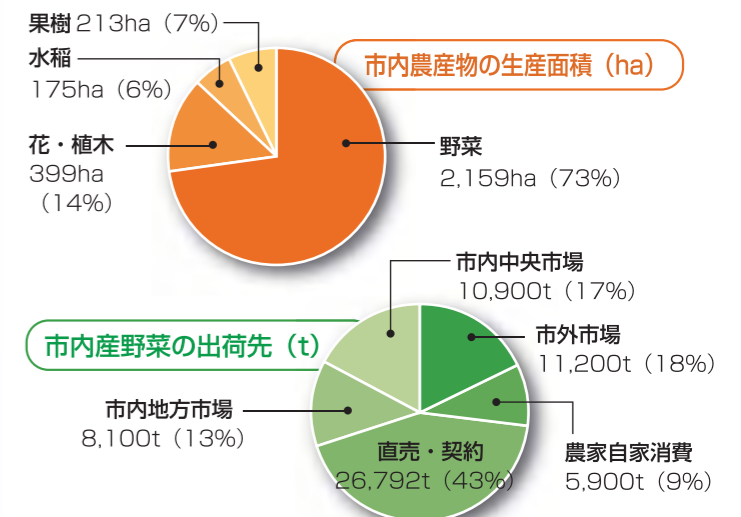
市内の農家さんは市場に出荷するほか、直売や契約栽培など多様な販売形態を持っています。横浜市は、全国的に見ても直売所が多い都市で、その数なんと約1,000か所。市内で生産されている野菜のうち約4割が直売等で、市場を通さずに取引されています。これは、畑と住宅地が隣接している横浜の特長を生かした販売形態なのです。

直売所で販売されている野菜の多く(特に葉物など)は、その日の朝に収穫されたものがほとんどです。たとえば枝豆は鮮度の低下が早い野菜なので、新鮮な朝採りの市内産のものであれば、本当においしく食べることができます。

直売所は場所により営業時間が異なり、週3回午後から販売というところも少なくありません。あなたの家の近所にも、実は直売所があるかもしれません。詳しくは、横浜市のホームページでも紹介されています。

横浜市農産物直売所マップ

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/chokubai/gmap.html>



数値：横浜市環境創造局推計 (平成17年度)  
参考URL: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/nousan/tisantisyo/nougyou/chishiki.html>  
レポート：伊藤 (横浜みどりアップ計画市民推進会議)